

日 時：令和元年 9 月 30 日（月） 10：00～12：30

場 所：日本薬学会 長井記念館 1 階 AB 会議室

出席者：別記 1

配付資料：別記 2

本委員会の委員が一部交代となったため、簡単な自己紹介の後、報告・協議事項に入った。

## ○報告・協議事項

### 1. WEB システム検討委員会について

- 1) 資料 1 に基づき、オブザーバーとして出席された WEB システム検討委員会 木津委員長が説明した。
  - ◇ 第 I 期実習終了後に集まった意見・要望から「要望の多かった項目」「運用上、不便がある項目」「旧システムに機能搭載していた項目」について次年度に向けて改修する。
  - ◇ システムにはいろいろな機能があるが、運用については各大学が検討してほしい。
  - ◇ 富士ゼロックスでは、大学等に出向き説明会を実施することは可能であり、希望があれば富士ゼロックスの担当者に連絡をしてほしい。
  - ◇ 意見・要望はこれまでどおり各地区調整機構が収集し、システムの改修依頼は WEB システム検討委員会を通して行う。改修内容は薬学教育協議会より各地区へ報告する。
- 2) WEB システム検討委員会において議論となった年度の検索機能の追加に関する課題「学生も指導薬剤師も 2 年間の実習記録(成績を含めて)が閲覧可能となること」について協議した結果、実習終了後、入力可能な期間を一定期間設け、それ以降は閲覧不可とすることとなった。
- 3) その他、WEB システムの質の担保という観点からもサイエンス・テクノロジー・システムズ(STS) への意見もきちんと収集した方が良く、との意見があった。

### 2. 2019 年度第 I 期、第 II 期実務実習および良い事例の報告

事前配付した 2019 年度第 I 期、第 II 期実務実習に関わる各地区からの報告書（資料 2,4）および実務実習の良い事例報告書（資料 3,5）について協議し、以下の意見があった。

- ◇ 報告書の内容について、概略評価が難しかった、8 疾患についてはどうカウントしたらいいのか分かりづらかった、連携について II 期は薬局からの情報がなかった、などの報告が多かったという印象を受けたので、今後、大学・施設で対応してほしい。
- ◇ 評価、連携、8 疾患については事前に大学からきちんと施設へ説明をすれば問題は少なくなるのではないかと意見があり、円滑に実習が進められるよう各地区からもそのメッセージを伝えてほしい。
- ◇ 昨年度の良い事例報告を実習内容別に編集し、平成 30 年度実務実習の良い事例集として協議会のウェブサイトで公開しているので参考にしてほしい。

### 3. 認定実務実習指導薬剤師に関する情報管理の実態について

- 1) 各地区調整機構に標記に関するアンケート調査（資料 7 補足資料）を行ない、その結果について資料 7 に基づき説明された。

◇ 5 地区は毎年確認してデータベース化し、他 3 地区については一部不明箇所はあるが、薬剤師会、病院薬剤師会で管理をしており、受入施設の調整の際は情報共有をしている。

2) 説明内容および情報管理に関連した内容について以下の様な意見がだされた。

- ・ 6 年制教育の開始にあたって集めていた施設概要書のフォーマットの見直しをして全体で共有し、年に 1 回施設から出してもらった方がいいのではないか。
- ・ 文科省に対して以下の質問がなされ、後日、文科省より協議会事務局へ回答することとなった。
  - ◇ 文科省が大学に実務実習施設の情報を保管するように指導している内容が、現在各地区調整機構で集めている情報で問題ないのであれば結構だが、文科省ではどのような情報を必要としているのか。
  - ◇ 改訂コアカリキュラムに対応した施設概要書があるのか。
  - ◇ 文科省では新設大学の設置要件として、実習受入施設のどのような情報を確認しているか。

4. 「改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の実施状況等アンケート調査」の回答状況標記について資料 8 に基づき説明がなされ、回答締め切りまでは、まだ日数があるが回答率が低い状況なので、回答を促すために各地区から薬剤師会、病院薬剤師会へリマインドをお願いしたい旨が伝えられた。

5. 令和 3 年度実務実習日程について

令和 3 年度実務実習日程（案）（資料 9）について説明がなされ、協議した。

- ・ 年末年始の休みの期間が 30 日からとなっているが毎年現場は厳しい状況なので考慮してほしいとの意見が出されたが、日程（案）は原則であり、これまで通り状況に応じて施設と大学との相談の上調整することとし、令和 3 年度実務実習日程は原則として資料 9 の通りとなった。
- ・ その他、ガイドラインと関連して令和 3 年以降の実習期はどのタイミングで決定するのかとの質問があり、文科省より年内に連絡会議を行ない、変更があれば関係団体へ連絡すると回答した。

6. その他

① 令和 2 年度実務実習ポスターについて

令和 2 年度実務実習ポスターは日本薬剤師会にご協力いただき、今月末に撮影する予定であることを報告した。

② PMDA メディナビについて

医薬品医療機器総合機構(PMDA)から学生に対する PMDA メディナビの登録・利用の勧奨、RMP の理解推進に関する協力依頼があった。厚生労働省より RMP などを実習にどう活用するかが大事であることを学生に指導してほしいとの発言があった。なお、依頼文書の宛先は例年通り各大学宛であることを確認した。

③ 「薬と健康の週間」

厚生労働省より「薬と健康の週間（令和元年 10 月 17 日～23 日）」のポスターが配付され、周知するよう説明があった。

#### ④ ふるさと実習について

ふるさと実習に関しての現在とても煩雑なので中央調整機構としてももう少しシステムティックにする予定はないのかとの意見がだされ、協議した。

ふるさと実習については、地区により事情が様々なので難しく、課題が多く推進まで至っていないのが現状であり、協議会として出来ることを今後の検討課題とする。

#### ⑤ 実務実習スケジュールについて

前回（第38回）の中央調整機構委員会における独自の実務実習スケジュールに関する議論を受けて、実務実習スケジュールに関する中央調整機構委員会としての取り扱いをどうするかについて提案があり、以下のような意見交換が行われた。

前回、独自のスケジュールで実習を開始すると報告された二つの大学については、一つの大学は、所属する地区調整機構において話し合いが行われ、問題点は解消されたと理解している。一方、もう一つの大学については、地区調整機構での話し合いで、独自のスケジュールが了承された旨の報告を受けたと、本間代表理事が発言した。

当該地区調整機構の委員長からは、地区調整機構では本件について改めて会議を行い、当該大学から説明を求め他の実習に支障がなければ問題ないと了承したこと、他大学の実習とふるさと実習を優先し、個々の施設に説明して地域で合意を得ていること、当該地区は他の地区に比べて比較的実習施設に余裕があり了承が得られていることの説明があった。

#### [主な意見]

- ・ほとんどの大学が大原則としてのルールを守っているなかで、ルールから外れることは問題ではないか。大原則の部分は曲げず進めていただきたい。
- ・連絡会議では、薬局・病院の順番で、それぞれ11週間で最低限22週間行うことを原則とすることで合意したが、これに限定するルールというものでは無い。
- ・文科省、福島専門官から以下の発言があった。

ガイドラインには連続性のある22週間として、各施設11週間を原則とするということになっている。ただし、大学が主導し病院薬局が連携して更に学習効果の高い方略や期間等を検討し実習を進めることも可能であるということになっている（ただし、22週間を下回らないこと）。この場合、実習施設、関係団体との十分な協議の上で決定する。ガイドラインに書かれていることを踏まえると、各大学、実施施設、関係団体の調整が行われたうえでその合意がなされたものであれば、それは進めていただいても問題がないと考えている。

#### [結論] 以下のことが了承された。

実務実習は、連絡会議および新六者懇等で決定され、全国薬科大学長・薬学部長会議等を経て得られた全国レベルの申し合わせ事項を遵守した形で行われている。本委員会は、全国レベルで実習の質担保と向上を目指す会議体なので、今回のような件については、予め本委員会での報告をお願いしたいこと。

当該地区の実習については今後の経過を注視し、教育効果等の検証について本委員会での報告をお願いすることがあると思うので、ご協力をお願いしたいこと。

以上

別記1 第38回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会出席者名簿

所属	出席者名 (敬称略)	出欠
北海道地区調整機構	宮本 篤	○
東北地区調整機構	小笠原 恵子	○
関東地区調整機構	吉山 友二	○
北陸地区調整機構	松下 良	○
東海地区調整機構	鈴木 匡	○
近畿地区調整機構	濱口 常男	○
中国・四国地区調整機構	二宮 昌樹	○
九州・山口地区調整機構	入倉 充	○
日本薬剤師会	田尻 泰典	○
	渡邊 大記	○
日本病院薬剤師会	栗原 健	○
	石井 伊都子	○
日本保険薬局協会	原 正朝	○
WEB システム検討委員会委員長 (オブザーバー)	木津 純子	○
薬学教育協議会本部	本間 浩	○
	伊東 明彦	○
	平田 収正	○
	望月 正隆	○
文部科学省高等教育局医学教育課	福島 哉史	○
	唐沢 浩二	○
	降旗 みを	○
厚生労働省医薬・生活衛生局総務課	安川 孝志	○
	三山 由美子	○

**別記 2** 配付資料

<配付資料>

- 資料 1-1： 第 10 回 Web システム検討委員会議事録
- 資料 1-2： 実務実習 Web システム改修項目（富士ゼロックスより）
- 資料 1-3： 閲覧・ダウンロード一覧（富士ゼロックスより）
- 資料 2： 2019 年度第 I 期実務実習に関わる各地区の報告書
- 資料 3： 2019 年度第 I 期実務実習の良い事例の報告書
- 資料 4： 2019 年度第 II 期実務実習に関わる各地区の報告書
- 資料 5： 2019 年度第 II 期実務実習の良い事例の報告書
- 資料 6： 平成 30 年度良い事例報告まとめ（項目別編集版）
- 資料 7： 各地区における認定実務実習指導薬剤師に関する情報管理の実態について
- 資料 7（補足）： 各地区における認定実務実習指導薬剤師に関する情報管理（アンケート用紙）
- 資料 8： 「改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の実施状況等アンケート調査」  
の回答状況
- 資料 9： 令和 2 年度実務実習実施日程、令和 3 年度実務実習日程（案）
- 資料 10： PMDA メディナビ活用のための協力依頼（PMDA より）
- 資料 11： 「薬と健康の週間」ポスター（厚生労働省より）
- 第 38 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会議事録